

保健衛生の概況

令和4年度

川西町保健センター

目 次

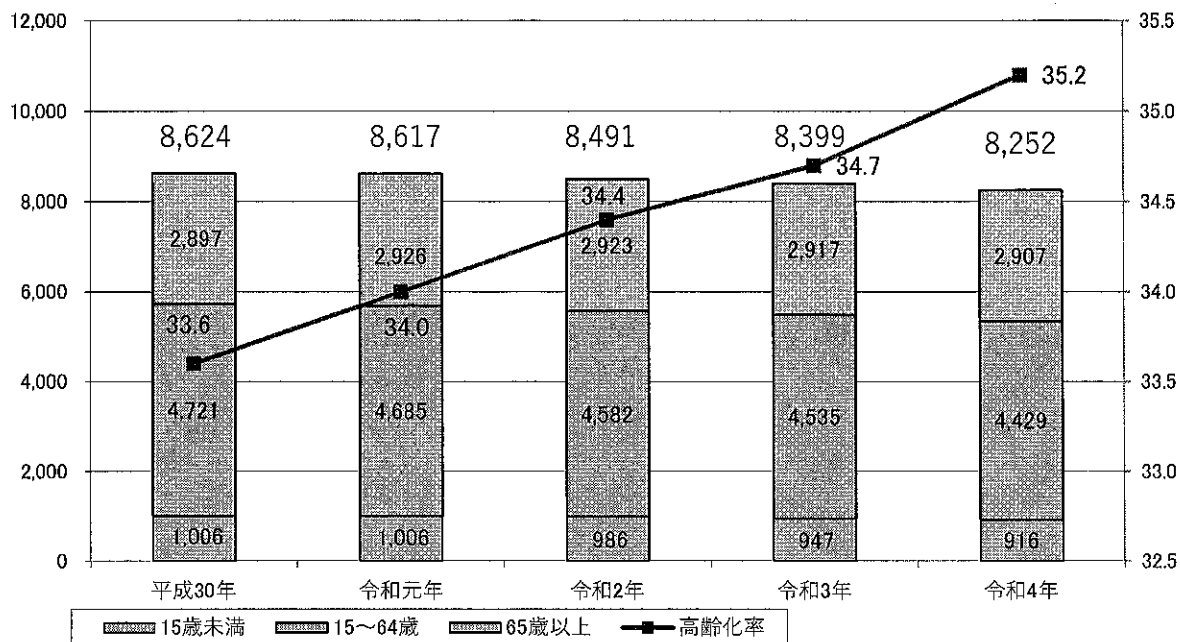
I. 川西町の概況	1
1. 人口の動向		
2. 人口動態		
II. 成人保健事業	3
1. 成人保健対策体系図		
2. 健康相談		
3. 健康教室		
4. 健康講座		
5. 健康増進法による健康診査		
6. がん検診		
7. 健康づくり事業		
III. 予防接種事業	9
1. 法律に基づく予防接種体系（川西町での実施形態）		
2. 定期予防接種実施状況		
3. 任意予防接種実施状況		
IV. 母子保健事業	14
1. 母子保健事業（子育て支援）体系		
2. 近年の母子保健事業の主な取組と背景		
3. 事業報告		
(1) 妊娠届出・母子健康手帳交付		
(2) 妊婦健康診査		
(3) 訪問事業		
(4) 出産・子育て応援ギフト		
(5) 乳幼児健康診査		
(6) 健康教室		
(7) 産後ケア事業		
(8) 母子手帳アプリ（母子モ）		
(9) 小児科・産婦人科オンライン相談		

1. 川西町の概況

※川西町住民基本台帳より（各年10月1日現在）

1. 人口の動向

(人) 図1 総人口及び年齢3区分別人口の推移 (％)



2. 人口動態

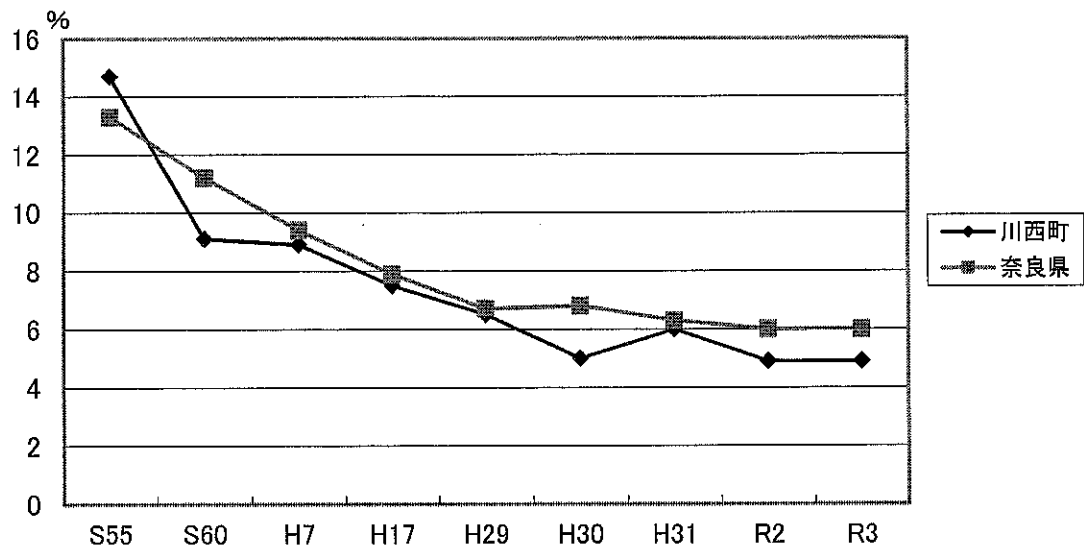
		出生		死亡		乳児死亡		新生児死亡	
		実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
H29	川西町	53	6.5	83	10.2	1	18.9	0	0
	奈良県	8,965	6.7	14,486	10.9	23	2.6	12	1.3
H30	川西町	40	5.0	85	10.5	1	25.0	1	25.0
	奈良県	8,947	6.8	14,674	11.1	20	2.2	9	1.0
H1	川西町	49	6.0	104	12.8	0	0	0	0
	奈良県	8,323	6.3	14,660	11.1	15	1.8	8	1.0
R2	川西町	39	4.9	92	11.5	0	0	0	0
	奈良県	7,831	6.0	14,678	11.2	13	1.7	6	0.8
R3	川西町	39	4.9	116	14.6	0	0	0	0
	奈良県	7,751	6.0	15,573	12.0	17	2.2	7	0.9

(奈良県人口動態統計より)

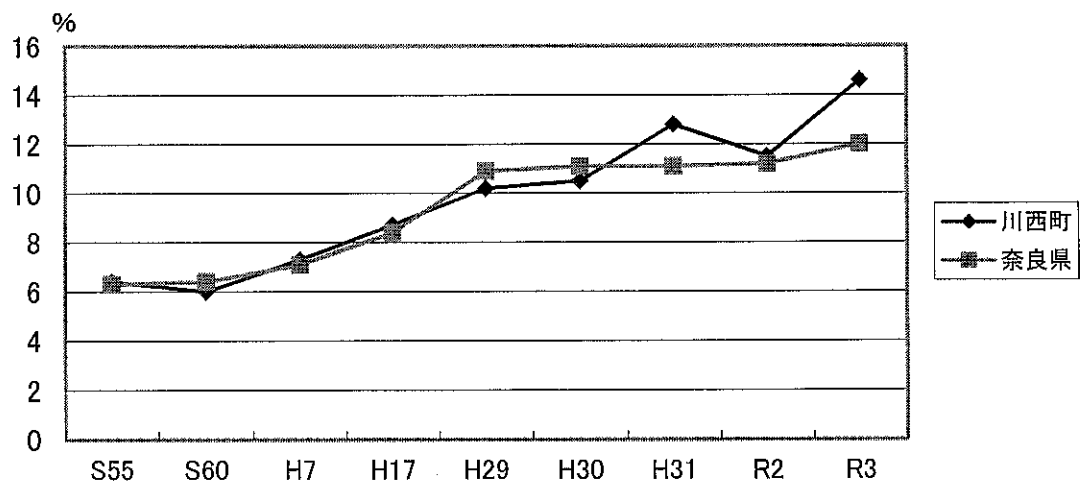
※出生率・死亡率=事件数/人口×1,000

※乳児(新生児)死亡率=乳児(新生児)死亡数/出生数×1,000

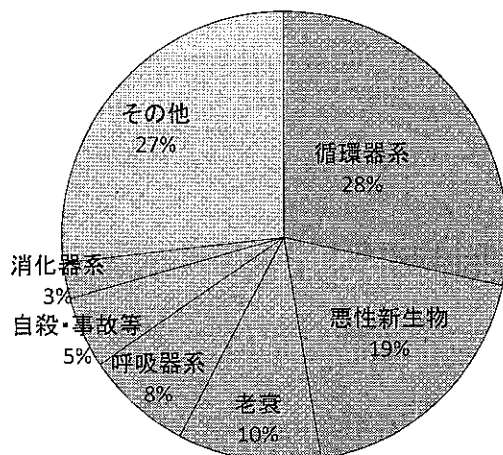
(1) 出生率の年次推移



(2) 死亡率の年次推移



(3) 川西町の死因別死亡状況 (R3年)



疾患名	人数	率
循環器疾患 (心疾患、脳血管疾患等)	33	28.4
悪性新生物	22	19.0
老衰	12	10.3
呼吸器系疾患 (肺炎等)	9	7.8
自殺・事故等	6	5.2
消化器系疾患	3	2.6
その他	31	26.7

II. 成人保健事業

1. 成人保健対策体系図

	20歳代	40歳代	60歳代～
検診		胃がんバリウム検診（40歳～）＊胃内視鏡検診（50歳～） 大腸がん検診（40歳～） 肺がん検診（40歳～）	子宮頸がん検診（20歳～） 乳がん検診（40歳～） 結核検診（65歳～）
健康増進法による健康診査		肝炎ウイルス検診（40歳及び一度も検査を受けていない者） 歯周病検診（40、50、60、70歳） 健康診査（40歳以上の生活保護費受給者）	
健康相談		病態別健康相談（生活習慣病予防） 心の健康相談（精神保健）	
各種教室		健康教室（減塩教室・血糖値と食事の教室・男性の料理教室） 健康講座	
訪問指導		訪問指導（健康に関する保健指導、検診事後指導等）	
自主活動支援及びサポーター講習（健康かわにし21推進）		さわやかなびのび会（運動グループ） 健康サポーター活動 健康サポーター養成講座（1回／3年）	
健康かわにし21計画の推進		健康づくり推進協議会 健康かわにし21キャンペーン	
特定健診・特定保健指導（国民健康保険加入者対象）		特定保健指導（メタボリックシンドローム該当者・予備群）	

2. 健康相談

健康に関する個別相談をおこない、正しい知識や必要な情報を提供する。

①健康相談

単位：実人数

	R3	R4
～64歳	2	2
65歳～	5	14
合計	7	16

②こころの健康相談

単位：人

	R3	R4
実人数	5	6
延人数	173	240

(R4地域保健事業報告)

心の健康相談数は前年度と比べると大幅に増えており、相談内容としては、自殺念慮や引きこもりの家族や家庭内暴力に関係した精神相談など様々である。緊急度の高いケースについては各関係機関と連携して支援を行っている。

3. 健康教室

生活習慣病予防のため、必要な情報を提供し健康意識を高める。

①減塩教室（年間1回）

単位：実人数

	R3	R4
～64歳	0	0
65歳～	0	1
合計	0	1

②血糖値と食事の教室（年間1回）

単位：実人数

	R3	R4
～64歳	0	0
65歳～	0	1
合計	0	1

③男性の料理教室（年間2回）

単位：実人数

	R3	R4
～64歳	0	0
65歳～	6	6
合計	6	6

①、②の教室とも申し込みが1名のため、個々の相談に対応する形で実施した。ここ数年、教室の参加者が少ないため、実施方法の検討が必要である。男性の料理教室は、調理台に2名とし、ひとりですべての工程を仕上げてもらった。また、試食はせずに持ち帰りとした。



4. 健康講座

単位：実人数

R3	R4
中止	中止



健康サポーター養成講座として開催する予定だったが、コロナワクチン接種事業を優先的に実施したこと、コロナ禍で養成講座の集客が難しいと判断して中止した。

5. 健康増進法による健康診査

① 肝炎ウイルス検診

肝炎ウイルスの感染の有無を調べて肝炎の早期治療につなげる。

単位：実人数

年度	受診者数	陽性者数	
		C型肝炎	B型肝炎
R4	19	0	0
R5	26	0	0

② 生活保護費受給者健康診査

医療保険に加入していない40歳以上の生活保護費受給者を対象に特定健診、特定保健指導に準ずる内容で健康診査および保健指導をおこなう。

単位：実人数

年度	対象者数	健診受診者	保健指導者
R3	99	2	0
R4	99	0	0

③ 歯周病検診

歯や口腔内の健康意識を高め、検診を受診することで歯の喪失を予防する。健康増進法に基づく40.50.60.70歳の節目を対象者として実施している。

単位：実人数

年度	対象者数	受診者	要精検者
R3	411	18	17
R4	467	25	23

6. がん検診

集団検診（胃・肺・結核・大腸・肝炎ウイルス・子宮・乳）

○胃バリウム検診

単位：実人数，%

年齢	受診者		受診率		要精検者		要精検率		がん
	40以上	50～69	40以上	50～69	40以上	50～69	40以上	40～69	
R3	240	73	5.5	5.1	7	3	3	2	1
R4	241	88	6.2	5.7	4	1	1.7	0.6	0
R3(県)	/		3.1	3.2	/		3.7	3.4	/
R4(県)	/		3.3	3.3	/		3.5	3	/

（R3県の平均は奈良県がん検診確定値公表データより抜粋）

（R4県の平均は奈良県がん検診速報値公表データより抜粋）

* 以下の検診も同様

○肺がん検診

単位：実人数，%

年齢	対象者	受診者		受診率		要精検者		要精検率		がん
	40～69	40以上	40～69	40以上	40～69	40以上	40～74	40以上	40～74	
R3	3,299	286	120	5.1	3.6	1	1	0.3	0.5	0
R4	3,223	329	139	5.9	4.3	3	1	0.9	0.5	0
R3(県)	/		/	4.2	3.1	/		1.4	1.3	/
R4(県)	/		/	4.3	3.2	/		1.6	1.2	/

奈良県の受診率に比べると町の受診率は高い傾向にある。

* 定期的結核健康診断は65歳以上の方を対象に実施。

新型コロナウイルスの影響で受診者数が減ったが、R4年度は徐々に回復している。

○大腸がん検診

単位：実人数，%

年齢	対象者	受診者		受診率		要精検者		要精検率		がん
	40～69	40以上	40～69	40以上	40～69	40以上	40～74	40以上	40～74	
R3	3,299	452	189	8.0	5.7	20	13	4.4	4.4	0
R4	3,223	513	230	9.2	7.1	25	11	4.9	3.2	1
R3(県)	/		/	9.4	6.5	/		6.1	5.1	/
R4(県)	/		/	9.2	6.2	/		6	5	/

他の検診と比較して手軽で受けやすい検診である。受診者数は前年度より増加している。

○乳がん検診

単位：実人数，%

年齢	対象者	受診者		受診率		要精検者		要精検率		がん
	40～69	40以上	40～69	40以上	40～69	40以上	40～74	40以上	40～74	
R3	1,675	163	104	8.9	10.1	5	5	3.1	3.8	0
R4	1,624	200	140	11.9	15	9	7	4.5	4.1	0
R3(県)	/		/	11.2	14.1	/		6.1	6.2	/
R4(県)	/		/	11.8	14.8	/		6.4	6.5	/

○子宮がん検診

単位：実人数，%

年齢	対象者	受診者		受診率		要精検者		要精検率		がん
	20～69	20以上	20～69	20以上	20～69	20以上	20～74	20以上	20～74	
R3	2,377	138	92	6.6	6.9	2	2	1.4	1.7	0
R4	2,351	221	180	9.5	11.5	3	3	1.4	1.5	0
R3(県)	/		/	10.4	12.7	/		1.2	1.3	/
R4(県)	/		/	10.7	13	/		1.2	1.2	/

子宮がん検診はR4年度に個別で受診勧奨と再勧奨を実施した効果があり、前年度に比べると大幅に受診者が増えている。

医療機関での検診

①前立腺がん検診（任意型がん検診）

単位：実人数

R3	R4
7	4

②胃内視鏡検診

50歳以上を対象とし、2年に1回の助成とする。胃バリウム検診との重複受診はできない。

単位：実人数、%

年齢	対象者	受診者		受診率		要精検者		要精検率		がん
	50~69	50以上	50~69	40以上	50~69	40以上	50~74	40以上	50~74	
R3	2,104	9	5	0.4	0.4	0	0	0	0	0
R4	2,083	9	5	0.3	0.4	0	0	0	0	0
R3(県)				1.2	1.4			14.9	14.7	
R4(県)								13.3	12.8	

胃内視鏡検診は平成29年度から始まり徐々に受診者が増えている。

7. 健康づくり事業

健康かわにし21（第2次）計画に基づいて健康づくりを推進している。

①健康かわにし21キャンペーン 単位：延人数

	R3	R4
回数	中止	中止
人数	-	-

新型コロナウイルスの影響で中止した。

②健康づくりウォーキング

単位：延人数

	R3	R4
回数	中止	3
人数	-	65

令和3年度はコロナの影響で中止となったが令和4年度は感染症対策をおこないながら3回開催することができた。健康サポーターが主体的に企画から運営まで取り組んでくださった。

③健康サポーターの活動（R4）

健康かわにし21計画の推進に協力していただいているボランティアの活動である。前年度と比較すると少しずつ活動回数が増えている。R5年度は養成講座を開催し健康サポーターの増員に努める。

参加人数	17人
活動回数	18回
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・健康ウォーキングの企画運営 ・乳幼児健診サポート（読み聞かせ等） ・広報レシピの調理

④自殺対策（R4）

	R4
回数	1
人数	22

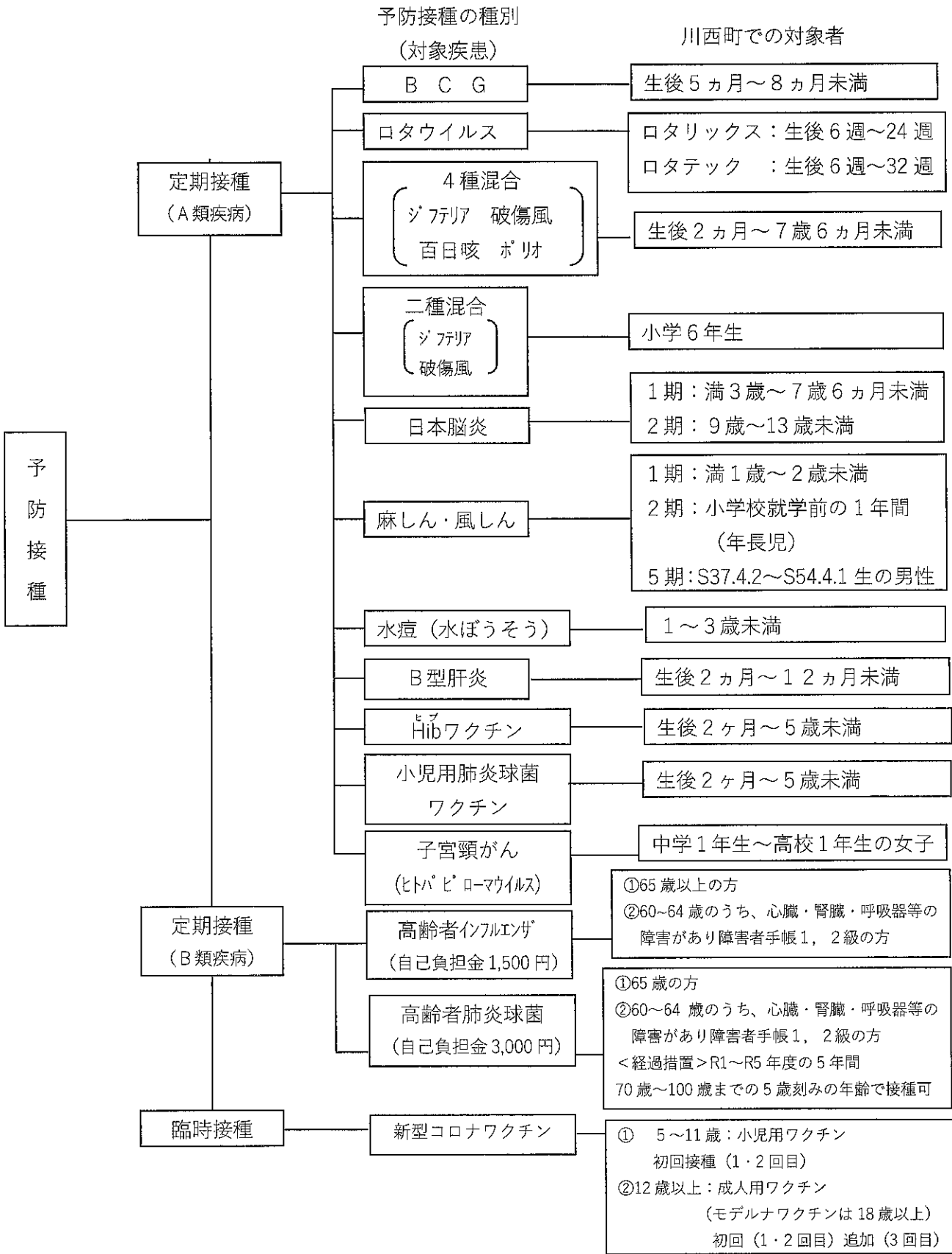
「誰も自殺に追い込まれることのない社会」の実現を目指して自殺対策を更に総合的、かつ効果的に推進していくため、また、誰もが「生きることの包括的な支援」として、自殺対策に関する必要な支援を受けられるよう、すべての都道府県及び市町村が「地域自殺対策計画」を策定している。

その一環として、地域住民や、地域の相談役である民生児童委員を対象に、ゲートキーパー養成研修を開催し、町の自殺の状況や課題を知ってもらうとともに、適切な支援につなげていけるよう、理解と協力を得る研修を行っている。

III. 予防接種事業

1. 法律に基づく予防接種体系（川西町での実施形態）

令和4年3月31日現在



2. 定期予防接種実施状況

(1) A類疾病 令和4年度接種者数

予防接種名			対象年(月) 齢	接種回数	接種者数	接種完了率		
BCG(結核)			生後5ヵ月～8ヵ月未満	1回	33	94.9%(1歳)		
ロタウイルス			ロタリックス：生後6週～24週	2回	19	92.3% (1歳)		
			ロタテック：生後6週～32週	3回	7			
					9			
四種混合(DPT-IPV) ジフテリア・百日咳 破傷風・ポリオ	1期	初回	生後3ヵ月～7歳6ヵ月未満	3回	31	ポリオ+三混 又は 四種混合 92.6% (7歳6ヵ月)		
		追加			1回		40	
二種混合(DT)		2期	小学6年生	1回	42	67.8%(13歳)		
日本脳炎			1期	初回	3歳～7歳6ヵ月未満	2回	45	84.0% (7歳6ヵ月)
							追加	
			2期		小学4年生	1回	72	74.1%(13歳)
			※1期	初回	※特例対象者 ・平成7年4月2日～平成19年4月1日生まれの20歳未満の者 ・平成19年4月2日～平成21年10月1日生まれの13歳未満の者	2回	1	52.2% 特例対象者 (20歳)
				追加			1回	
			※2期		10月1日生まれの13歳未満の者	1回	19	
※平成23年5月より特例対象者は、1期3回と、9歳以上に2期1回の計4回の接種を20歳までの間に定期接種として受けることが可能になった。								
麻しん風しん(MR)			1期	1歳～2歳未満	1回	39	86.3%(2歳)	
			2期	年長児(小学校就学前の1年間)	1回	53	91.3%(7歳)	
			5期	昭和37年4月2日から昭和54年4月1日の間に生まれた男性	抗体検査実施者数 30人 うち陰性者数 21人 予防接種実施者数 8人			
水痘			1歳～3歳未満	2回	37	91.3%(3歳)		
					33			
B型肝炎			生後2ヵ月～1歳未満	3回	26	72.6%(1歳)		
					31			
					12			

予防接種名	対象年(月) 年齢	接種回数(数)	接種者数	接種完了率
ヒブワクチン	○生後2ヵ月～7ヵ月未満(全4回) ○生後7ヵ月～1歳未満(全3回) ○1歳～5歳未満(全1回)	1回目	26	96.0%(5歳)
		2回目	31	
		3回目	29	
		4回目	15	
小児用肺炎球菌	○生後2ヵ月～7ヵ月未満(全4回) ○生後7ヵ月～1歳未満(全3回) ○1歳～2歳未満(全2回) ○2歳～5歳未満(全1回)	1回目	26	95.8%(5歳)
		2回目	29	
		3回目	31	
		4回目	18	
子宮頸がん(HPV)	中学1年生～高校1年生相当(女子)	3回	9	/
			6	
			2	
	キャッチアップ対象者(平成9年4月2日～平成17年4月1日生まれの女性)	3回	22	
			17	
		11		

※子宮頸がん(HPV)ワクチンは、平成25年6月から積極的な勧奨を一時的に差し控えられていたが、令和3年11月に専門家の評価によりHPVワクチンの積極的勧奨を差し控えている状態を終了させることが妥当」とされ、原則、令和4年4月から、他の定期接種と同様に、個別の勧奨を行うこととなった。

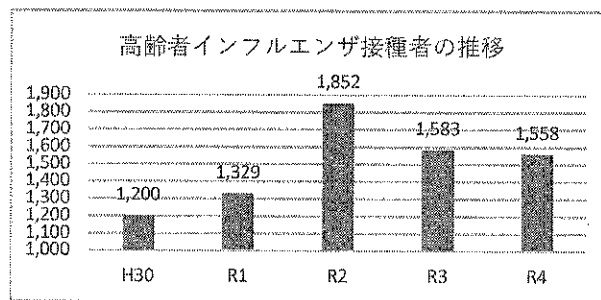
(2) B類疾病 過去5年間の経年接種者数

高齢者インフルエンザ

対象者	①満65歳以上の者 ②満60歳以上65歳未満の者で心臓、じん臓又は呼吸器の機能に自己の身の日常生活活動が極度に制限される程度の障害を有する者及びヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障害を有する者(医師が該当すると認めた者)身障手帳1・2級相当
-----	---

【高齢者インフルエンザ予防接種接種者数の5年間の推移】

年度	人数
H30	1,200
R1	1,329
R2	1,852
R3	1,583
R4	1,558

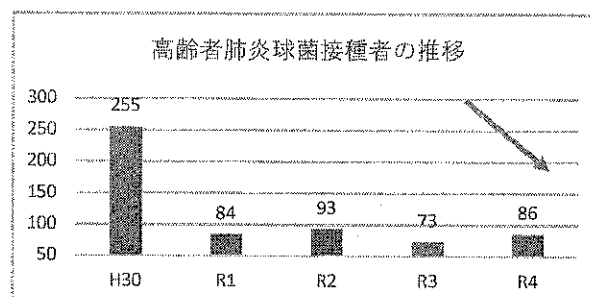


高齢者肺炎球菌

対象者	①65歳の者 ②上記インフルエンザの対象者②と同様 ③年度中に70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳になる者 (R1～R5年度経過措置。R1年度のみ100歳以上になる者も対象)
-----	--

【高齢者肺炎球菌予防接種接種者数の5年間の推移】

年度	人数
H30	255
R1	84
R2	93
R3	73
R4	86



H26年度～5年間の経過措置で定期接種化されたが、再度延長となり、既接種者は対象から除かれたため、大幅減となった。

3. 任意予防接種実施状況

任意予防接種は、予防接種法に基づかない予防接種であり、医師との相談によって判断し接種する仕組みになっており、定期予防接種と違って行政が推奨しているものではないが、使用するワクチンは厚生労働省によって薬事法上の許可がなされているものである。

そのため接種にかかる費用は全額自費であり、負担軽減を図るため接種費用の助成を行っている。

(1) 任意予防接種 過去5年間の経年接種者数

高齢者肺炎球菌ワクチン接種費用助成事業

対象者	町内在住の70歳以上の方のうち、定期予防接種対象外の者
助成内容	肺炎球菌ワクチン接種費用のうち、3,000円を上限として還付

【本事業での助成者数の5年間の推移】

(人)

年度	人数
H30	5
R1	5
R2	5
R3	1
R4	1

・高齢者肺炎球菌の定期接種については、H26年～H30年度の5年間にわたり5歳刻みの年齢を対象として実施してきたが、再度R1年度より5年間延長となった。そのため、本事業についても引き続き実施。

妊婦等風しん抗体検査ワクチン接種費用助成事業

目的	妊娠中に感染した場合、先天性風しん症候群に罹患した児が生まれる可能性があることから妊婦とその子供を風しんから守るため風しんワクチンの接種を推奨し、その費用を一部助成する。
対象者	①妊娠予定又は妊娠を希望する女性 ②妊婦の配偶者及び同居家族 ※ワクチン接種の対象者は、抗体検査の結果抗体価が低値の者
助成内容	風しん抗体検査費用の1/2(上限3,000円) 風しんワクチン又は麻しん風しん混合ワクチン接種費用の1/2(上限5,000円)

【本事業での助成者数の5年間の推移】

(人)

年度	抗体検査	ワクチン接種
H30	2	5
R1	5	2
R2	0	0
R3	0	0
R4	1	1

・抗体検査については、奈良県としても独自で助成事業を実施している。

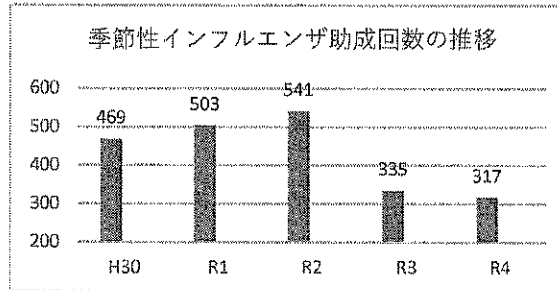
季節性インフルエンザ接種費用助成事業

目的	子どもの季節性インフルエンザ予防接種を希望する者に対し、接種費用の負担を軽減し受けやすい体制を整備するとともに、子ども個人のインフルエンザ発病又はその重症化を予防する。
対象者 助成回数	生後6ヵ月～小学6年生：2回 中学3年生・高校3年生：1回
助成内容	①償還払い方式：接種費用を全額負担後、保健センターにて還付手続きを行う ②助成券発行方式：事前に保健センターにて助成券発行を受け、医療機関で支払時に助成額を差し引いた額で支払う（町内医療機関のみ）

【本事業での助成者数の5年間の推移】

(人)

年度	助成者数	延助成回数
H30	320	469
R1	357	503
R2	378	541
R3	249	335
R4	192	317



任意ワクチン接種費用助成事業

目的	子どもの任意予防接種（おたふくかぜ）を希望する者に対し、接種費用の負担を軽減し受けやすい体制を整備するとともに、その疾患への罹患又は重症化を予防する。
対象者 助成回数	おたふくかぜ：1歳～5歳で1回
助成内容	おたふくかぜ：接種費用の1/2（上限3,000円/回）

【本事業での助成者数の5年間の推移】

(人)

年度	おたふくかぜ
H30	28
R1	32
R2	29
R3	20
R4	32

IV. 母子保健事業

1. 母子保健事業（子育て支援）体系

川西町の子育て支援（保健センター・子育て支援センター）概要

*川西町では妊娠・出産から就学まで切れ目のない子育ての充実を目指し、子どもや子育てしている人にとってやさしいまちづくりに取り組んでいます。

保 健 セ ン タ ー 町民の健康の保持、増進と福祉の向上を図る	訪問	・妊婦訪問	・赤ちゃん訪問	・未熟児訪問指導	・1歳バースデイ訪問	・母子保健訪問	・養育支援訪問	
	教室	・ママパパ教室	・赤ちゃん体操教室	・離乳食教室	・すくすくサロン	・2歳児歯の健康教室	・3歳児親子クッキング	・4・5歳児親子クッキング
						・療育教室 ⇄	・個別療育	
	健診 健康	・妊婦健康診査 ・妊婦歯科検診		・4.5ヵ月児健康診査	・1歳6ヵ月児健康診査		・3歳6ヵ月児健康診査	・歯磨き指導
相談	・母子手帳交付	・母乳相談・産後ケア	・10ヵ月児相談	随時：電話相談・乳幼児相談・育児相談・栄養相談・発達相談・出張発達相談 ※保健師、栄養士、臨床心理士、助産師が対応				
<p>妊娠 誕生 0歳児頃 1歳児頃 2歳児頃 3歳児頃 就学</p>								
子 育 て 支 援 セ ン タ ー 子育てに関する様々な不安感や悩みを緩和し、子育ての楽しさを伝える。子育ての悩みを解決し、子育ての楽しさを伝える。	相 談	随時：子育て相談（来所相談・電話相談・訪問相談等）*関係機関との連携を密にしています。 ※利用者支援員、保育士が対応						
	年間利用者登録（要）*有料	町内外	・つどいの広場（ひだまり）・・・屋内で子育て親子の遊び場と交流の場を提供します。					
	未登録者の参加（可）	町内	・年齢別親子広場 *0歳児親子広場 *1歳児親子広場 *2歳児親子広場 ※保健師や臨床心理士、栄養士も同席して行う活動も実施。 ・・・・同年齢の子どもとその保護者の交流の場で子育てについて学び合いを支援する事業。支援センターで年齢別に月1回、年11回実施。					
			・移動広場（就園前児を対象）：子育て支援センターを利用困難な親子支援、地域のつながりをサポートする事業。 ・・・・川西文化会館しきの間で3回、保健センターで2回、川西幼稚園園庭で2回実施します。（年7回）					
			・青空広場（就園前児を対象）：地域のつながりを重視した事業。 ・・・・町内の公園と川西幼稚園園庭を借用して年2回実施します。					
			・めばえ広場（就園前児を対象）：町内の大字を5分割して大字の公園を利用してご近所さんが交流する事業。 ・・・・対象者（未就園児）には、職員が個別に案内状を配布します。					
・きずなサロン（新生児から8ヶ月までの乳児対象）：交流支援と子育て支援センター周知、活用してもらうための事業。毎回同席する保健師による育児や成長発達などの様々な悩みの相談やアドバイスを受けられる事業。保健センターも利用して実施します。 ・・・・保健センターで3回、支援センターで2回実施します。（年5回）								
・ベビーマッサージ（新生児から8ヶ月までの乳児対象）：交流と子育て支援センターの周知、活用してもらうための事業。 ・・・・専門家を招き、支援センターで年4回、親子のふれあいの場を提供します。								
会員登録（要）*有料	町内外登録者	・わくわくタイム（就園前児を対象）：専門家の指導による前期・後期別のプログラム構成で親子のふれあいと幼児のからだ育てを目的とした事業。 ・・・・支援センターで年20回実施します。【前期】「親子でヨガ①」「親子で体操」【後期】「親子でヨガ②」「親子でリトミック」						
登録者 未登録者（可）	町内外町民	・子育て講座：講師を招いて講演・実技などバラエティーに富んだ内容で子育てをサポートする事業。支援センターで年8回実施します。*託児有り。						
その他	*ファミリーサポート事業（有償の預かり隊）		*子育てサークル活動の支援		*母親クラブの支援（サークル活動支援）			

2.近年の母子保健事業の主な取組と背景

平成27年度

北欧で行われている"ネウボラ事業"を知り川西町版としての展開を検討

- ・庁内で子育て支援に携わる職員での学習会を開催（以降毎年度開催）
- ・先進地事例を参考に、次年度に向けた事業展開案をまとめる
- ・子育て支援ハンドブックと子育て支援体系の概要を作成

妊娠届出後～出産までの期間で関わる機会が少なかったことから妊娠期の関わりを強化

平成28年度

子育て世代包括支援センター（母子保健型）設置に向けた検討

- ・相談室（ネウボラルーム）の設置
 - ・産前産後サポート事業として、妊婦全戸訪問と母乳相談助成事業の開始
- 先進地視察（和光市）

平成29年度

子育て世代包括支援センター（母子保健型）設置

- ・セルフプランと支援プランの作成
- ・赤ちゃん体操教室の開始
- ・1歳バースデー訪問の開始

時期に応じて利用者が適切なサービスを選択するための支援と要支援者に対する関係者間の支援内容の統一

平成30年度

妊娠期～乳幼児期にかけての切れ目ない支援の充実

- ・産後ケア事業（宿泊型・通所型）の開始
- ・子育て支援部門（基本型）利用者支援員との連携

産後不安定になりやすく虐待リスクも高まるこの時期に、母児が心身ともに安定して過ごし、セルフケア能力を高める場を確保

令和元年度

- ・妊婦個別歯科検診を無償化に

令和2年度

- ・母子手帳アプリ(母子モ)を導入

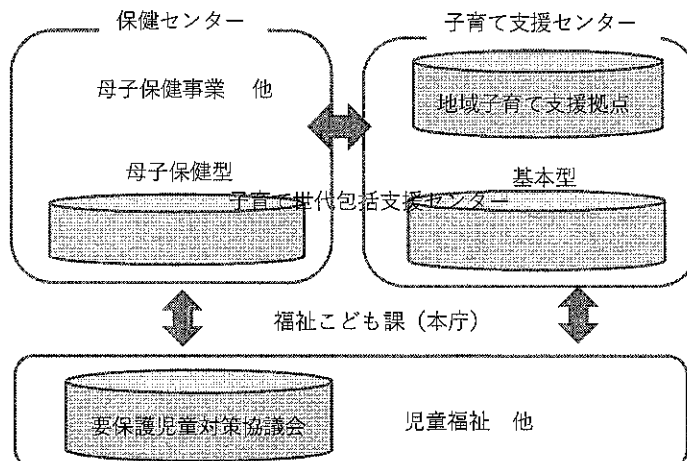
令和3年度

- ・小児科・産婦人科オンライン相談を導入

令和4年度

- ・出産子育て応援ギフトの開始、伴走型相談支援の充実

一川西町の母子保健行政機構



3. 事業報告

(1) 妊娠届出・母子健康手帳交付

妊娠届出時に保健師が面談を行い、その後アセスメントを行って支援の方針を決定している。

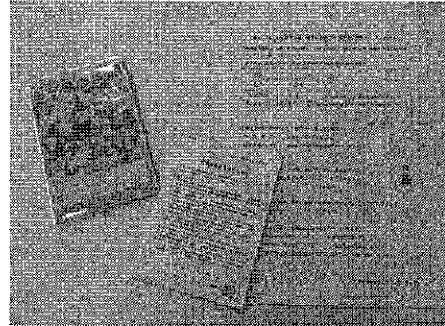
①妊娠届出状況(R4届出分)

単位：人(内、転入妊婦)

妊娠週数	満11週以内	満12～19週	満20～27週	満28週～	合計
人数	30(2)	0	0	0	30(2)

②初・経産別年齢区分(R4届出分) 単位：人

妊婦の年齢	初産婦	経産婦
～19歳	0	0
20～24歳	3	0
25～29歳	5	6
30～34歳	1	11
35～39歳	1	4
40歳～	0	1
合計	10	22



③最近5年間の妊娠届出者数の推移

単位：人

年度	H30	R1	R2	R3	R4
届出者数	60	44	40	40	32

30歳代以降の経産婦の出産が多い傾向がある。また、妊娠届け出者数が減少傾向である。個別の支援プランを作成し、切れ目ない支援・伴走型支援を行っている。近年、未婚、複雑な家庭環境、精神的な不安定さを抱える妊婦等様々なケースがみられる。

(2) 妊婦健康診査

H10年度から妊婦健診は地方交付税措置されており、H29年度からは97,500円分補助を行っている。

①最近5年間の妊婦健診実施者数の推移

単位：人

	H30	R1	R2	R3	R4
受診実人数	81	76	67	65	54
受診延人数	524	600	410	492	324

(地域保健・健康増進事業報告)

奈良県市町村の集合契約に基づき、R4年度から100,000円分に補助を増額した。県外受診者は、受診状況を電話で確認している。

(3) 訪問事業

H9年度より母子保健事業の実施主体が市町村へ移譲され、妊産婦・新生児訪問事業を実施してきた。全戸への訪問は新生児(乳児)がH15年度～、妊産婦はH28.10月～行っている。

①妊産婦・乳幼児訪問者数の推移(過去5年間)

単位：人

	妊婦		産婦		新生児		乳児		幼児	
	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延
H30	34	35	39	39	28	31	17	17	3	3
R1	43	44	54	54	37	40	26	28	6	8
R2	25	26	38	44	34	40	7	8	0	0
R3	37	37	40	42	27	29	16	18	2	2
R4	24	29	29	41	28	28	12	12	0	0

(地域保健・健康増進事業報告)

②養育支援訪問者数

若年妊婦や産後うつ等により子育てに対して不安を抱える産後間もない時期の養育者がいる家庭等を対象として、育児の援助や相談・指導を行っている。H24年度～開始。 単位:人

	H30	R1	R2	R3	R4
実人数	0	1	0	0	0
延人数	0	5	0	0	0

③1歳バースデー訪問者数

単位:人

平成29年9月より開始。10カ月児相談から1歳6カ月児健診までの間に関わる機会となっている。

	H30	R1	R2	R3	R4
実人数	7	3	0	2	0
延人数	7	3	0	2	0

妊婦訪問や赤ちゃん訪問は、ほぼ全数訪問できている。令和4年度は、養育支援訪問及び1歳バースデー訪問の実績はなかった。

(4) 出産・子育て応援ギフト

令和5年2月より開始。妊娠期から出産・子育てまで一貫して相談に応じる「伴走型相談支援」と、経済的支援として「出産・子育て応援ギフトの支給」を一体的に実施している。 単位:人

	R4
出産応援ギフト	39
子育て応援ギフト	25

(5) 乳幼児健康診査

母子保健法第12・13条に基づき、4カ月児健診・1歳半健診・3歳半健診を実施している。また、法定外ではあるが、10カ月児相談と2歳児歯の健康教室を全員対象に実施している。

当初の健診日に来れない場合は、別日を提案しできるだけ受診につなげている。未受診者へは自宅や保育園への訪問、来庁により児の状況を把握している。

①4カ月児健診(年間6回)

最初の集団指導として、図書館職員より本を通した乳児期から親子のコミュニケーションの大切さや保健師より虫歯予防等についての話をを行い、地域の相談員である主任児童委員の紹介を実施。

○最近5年間の受診者数の推移

単位:人

	H30	R1	R2	R3	R4
対象者数	52	47	46	35	35
受診者数	52	47	46	35	34
受診率(%)	100%	100%	100%	100%	97.1%

(地域保健・健康増進事業報告)

対象者数は、減少傾向であり、受診率もほぼ例年通り。R4年度は、感染拡大防止のため、集団指導を中止した。欠席理由は、把握済みである。

②10カ月児相談(年間4回)

4カ月～1歳半健診の間の全数把握の機会としており、発達の相談とともに離乳(食)に関する相談が多い時期である。

○最近5年間の受診者数の推移

単位:人

	H30	R1	R2	R3	R4
対象者数	55	40	55	38	42
受診者数	54	40	37(55※)	38	42
受診率(%)	98.2%	100%	67.2%(100%※)	100%	100%

※コロナの緊急事態宣言で1回分は電話相談で実施、()は電話相談を含めた人数。(地域保健・健康増進事業報告)

③ 1歳6カ月児健診(年間4回)

○最近5年間の受診者数の推移

単位：人

		H30	R1	R1延期者	R2	R3	R4
対象者数		55	47	5	49	48	35
受診者数		53	43	5	49	42	34
受診率(%)		96.4%	91.5%	100	100%	87.5%	97.1%
精 検 者 数	身 体	人数 2	0	0	1	0	4
		率(%) 3.8%	0%	0	2.0%	0%	11.8%
精 神	人 数	0	0	0	0	0	0
		率(%) 0%	0%	0%	0%	0%	0%
歯 科	受診者数	53	43	5	49	41	34
	う 蝕 患 者 数	1	0	0	0	0	0
		罹患率(%) 1.9%	0%	0%	0%	0%	0%

(地域保健・健康増進事業報告)

対象者は減少傾向であるが、受診率が増加し、例年に近い数値となった。精密検査者は、その後の受診結果を把握している。

④ 2歳児歯の健康教室(年間4回)

○最近5年間の受診者数の推移

単位：人

	H30	R1	R2	R3	R4
対象者数	65	57	57	51	46
受診者数	58	51	52	40	40
受診率(%)	89.2%	89.5%	91.2%	78.4%	87.0%
う蝕罹患数	5	5	3	0	0
罹患率(%)	8.6%	9.8%	5.8%	0%	0%

(地域保健・健康増進事業報告)

対象者及び受診率が減少傾向であるが、齲蝕罹患患者数は、0人である。感染拡大防止のため、R3年度以降フッ素塗布を中止しているが、R5年度は、フッ素塗布を再開する。

⑤ 3歳6カ月児健診(年間4回)

○最近5年間の受診者数の推移

単位：人

		H30	R1	R1延期	R2	R3	R4
対象者数		65	52	15	59	56	51
受診者数		62	51	15	54	52	46
受診率(%)		95.4%	98.1%	100%	91.5%	92.9	90.2
精 検 者 数	身 体	人数 1	2	0	1	1	1
		率(%) 1.6%	3.9%	0	1.9%	1.9%	2.2%
精 神	人 数	0	0	0	1	2	0
		率(%) 0%	0%	0	1.9%	3.8%	0.0%
眼 耳	人 数	4	4	1	3	1	5
	人 数	0	3	0	2	2	2
歯 科	受診者数	62	51	15	54	50	46
	う 蝕 患 者 数	13	8	2	5	5	2
		罹患率(%) 21.0%	15.7%	13.3%	9.3%	10.0%	4.3%

(地域保健・健康増進事業報告)

対象者数はやや横ばい傾向であるが、受診率が減少傾向である。体調不良や保護者の仕事の調整等の理由で欠席となることが多い。受診勧奨に努め、受診率の向上を目指し、疾病の早期発見につなげる。齲蝕罹患患者数は、減少傾向であり、今後も減少を維持していく。

(6) 健康教室

(妊娠期)	0歳 (乳児期)	1歳 (幼児期)	3歳
①ママパパ教室	②赤ちゃん体操教室 ③離乳食教室	④すくすくサロン ⑤療育教室 ⑥キッズからだあそび教室 ⑦出張発達相談	⑧親子クッキング

各時期に保護者の不安の高いテーマや啓発したいテーマを取り上げ教室を開催している。不安解消とともに保護者同士の交流の場ともなっている。また、支援者側からは、健診後のフォローの場としても役割を果たしている。

①ママパパ教室

平成29年度より、パパクッキングの機会を取り入れたことにより、父同士の交流の場にもなっている。病院で行う教室と異なり、妊娠期から地域とのつながり作りや出産後の子育てのイメージを夫婦でもってもらえる機会としての役割をもたせている。(年間3回) 単位：人

	H30	R1	R2	R3 (2回)	R4
参加者数	27	14	16	9	15
(うち父親)	12	10	5	4	7

※R3 コロナの感染状況により1回中止。

R4年度は、感染対策を講じながら実施し、試食を再開した。(パパクッキングは中止)参加組数が減少傾向であり、開催1回あたり3組ほどで少ないが、個別指導が充実している。

②赤ちゃん体操教室

平成29年度より産前産後サポート事業の一環として開始。作業療法士と保育士が中心となり、発達に応じた体操や遊び、生活に関する情報提供などを行っている。(年間10回) 単位：人

	H30(11回)	R1(10回)	R2(10回)	R3(11回)	R4(11回)
参加者数 (実/延)	37/117	48/120	24/88	30/74	30/112



R4年度は、継続参加者が増加し、保護者の集いの場ともなった。

③離乳食教室

離乳食の作り方を、実演を交えながら説明している。試食を行うことで、子どもの口の動きを見ながら個人にあわせた進め方のアドバイスを行っている。(年間6回) 単位：人

	H30	R1	R2 (年5回)	R3	R4
前期	21	20	15	13	13
後期	27	20	15	7	13



アレルギーや咀嚼発達に合わせた食事の進め方についての質問も増えており、家庭で実践しやすい内容で説明している。体重測定にて、成長確認の機会となっている。

④すくすくサロン

幼児期における食事の悩みやその他子育ての相談が気軽にできる場となっている。手作りおやつを紹介や子どもの事故予防の話などサロニックに楽しい雰囲気でお話をすすめている。

	H30	R1	R2	R3	R4
参加者数	37	22	16	15	6
回数	4	3	3	3	3

単位：人,回

おやつや事故予防などに関する子育てについての情報交換の場となっている。

⑤療育教室

1 集団療育（あそびの教室）

集団遊びをとおして、児の心身の発達やことばの発達を促すとともに、保護者が児の成長を理解し、親子関係の確立を図ることを目的とする。

単位：人,回

年度	R1			R2			R3			R4		
	前期	中期	後期	前期	中期	後期	前期	中期	後期	前期	中期	後期
実人数	7	11	11	—	6	8	4	5	7	—	—	—
延人数	221			114			126			—		
実施回数	30			21			29			—		

令和4年度は対象者の減少により実施していない。

2 個別療育

平成28年度より、発達障がいのある児（疑いを含む）に対して、早期から療育訓練を行い、保護者が児の発達を正しく理解し発達を促す関わりがもてるための指導・助言を行っている。個別に目標設定を行い、個別指導計画に基づいて2カ月ごとに見直しながら療育を実施。

単位：人

年度	H30	R1	R2	R3	R4
延(実)	48(3)	41(3)	36(1)	35(2)	73(2)

言葉やコミュニケーションの遅れについて相談のあった児は、成長が見られ、保護者も家庭で児の発達を促す関わりを持つことができた。

⑦出張発達相談

幼稚園・保育園（町外を含む）に在園している児の発達について、就学を見据えた乳幼児の健全な成長発達を支援することを目的とする。

場所	H30	R1	R2	R3	R4
成和保育園	11	6	2	3	6
川西幼稚園	10	6	8	7	4
川西こども園	7	3	3	9	8
その他	—	1	—	—	1

健診後や就学前の利用が多く、子どもの状況を把握したうえで、保護者の不安や困り感を聴き、発達支援の方向性を提案している。

⑧親子クッキング

親も調理方法を学び、子ども自身も調理をすることで食への関心を高める良い機会となっている。午前と午後の2部制にして密を避け、感染対策を実施しながら親子単位でクッキングをおこなっている。

対象	R1	R2	R3	R4
3歳児	4組(同伴者5名)/1回	11組(同伴者6名)/2回	24組(同伴者13名)/4回	28組(同伴者12名)/4回
4・5歳児	11組(同伴者8名)/1回			
小学生	27組(同伴者11名)/3回	—	16組(同伴者10名)/2回	21組(同伴者10名)/3回
パパとクッキング	8組(同伴者2名)/1回	—	8組(同伴者3名)/1回	8組(同伴者4名)/1回

※R1,R2はコロナの感染状況により中止となった日程がある。

日程によってメニューを選べるようにしており、親子で楽しくクッキングができています。最近では、父親の参加者も増えてきている。



⑨歯みがき指導

1 幼稚園・保育園・小学校での歯みがき教室

年齢に合わせてペープサートやスライドを利用して歯の大切さについて伝えた上で、ブラッシング指導を行っている。(各施設年1回)

単位：人

場所	H30	R1	R2	R3	R4
成和保育園	55	48	中止	中止	47
川西幼稚園	100	102	中止	98	49
川西こども園	30	55	63	中止	64
川西小学校	67	75	中止	中止	66

*川西こども園の新規開設はH29.4であるが、歯みがき指導は次年度より開始した。

R4年度は、全ての場所で歯みがき教室を再開できた。感染拡大防止のため、染め出しは中止し、歯間フロスの話しに変更した。各所属の歯科検診の結果から、教室の内容を充実していく。

2 妊婦歯科検診

集団検診(年3回)、個別検診(通年)で実施している。令和元年度より個別も無償化。

	H30	R1	R2	R3	R4
集団	6	11	2	5	4
個別	1	3	9	10	9

単位：人

R4年度は、感染拡大防止のためできるだけ個別を推奨した。町外のかかりつけ歯科医院で受診される方は、未計上のため、受診状況を把握する必要がある。

(7) 産後ケア事業

①母乳相談費用助成事業（アウトリーチ（訪問）型）

産後1年までの産婦が不安要因のひとつの母乳相談について、相談・ケアを受けることができる。

	H30	R1	R2	R3	R4
人数	6	6	6	8	4

単位：人

②産後ケア事業（通所型・宿泊型）

産後1年までのお母さんとお子さんで、育児に対する不安をお持ちの方などすべての方が産後ケアを受けることができる。助産院への委託にて、実施している。

	H30	R1	R2	R3	R4
通所型	0	7回/2人	0	2回/2人	7回/3人
宿泊型	0	0	7回/2人	1回/1人	0

単位：回数/人

通所型の利用者数が増加傾向であり、利用ニーズもある。きょうだいのいる家庭では、通所型と訪問型が利用しやすいと思われる。引き続き、利用しやすい体制を整える。

(8) 母子手帳アプリ(母子モ)

スマートフォンで、予防接種の記録や児の成長の記録を残すことができる。

また、川西町の子育て情報を受信することができる。

単位：人

	R2	R3	R4
登録者（実）	54	101	123

登録者数は増加傾向で、予防接種の記録・接種忘れ防止や町からのお知らせの受信できるなどの需要がある。引き続きホームページや広報で利用を促す。

(9) 小児科・産婦人科オンライン相談

スマートフォンで小児科医や産婦人科医と無料相談ができる。

	R3	R4
登録者（実）	69	90
利用者（延）	43	65

単位：人

※R3年11月～R4年3月末の実績

登録者数が増加した。また、相談内容も様々で、利用後のアンケートでは、「また利用したい」と好評を得ている。引き続きホームページや広報で利用を促す。